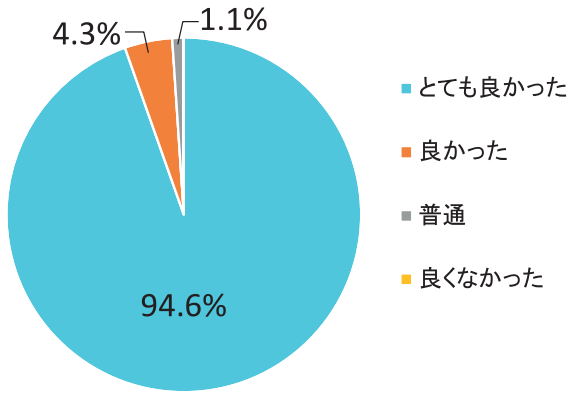
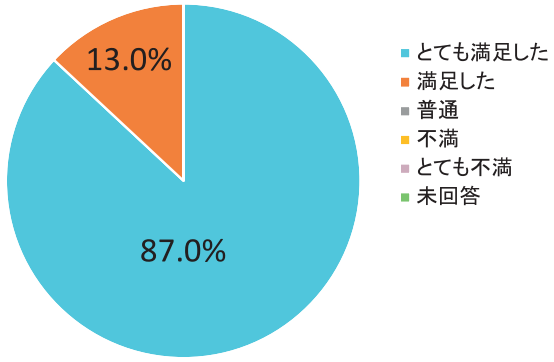
令和３年度　へき地校体験実習 事後アンケート（令和4年3月25日現在）

実 施 者：北海道教育大学 へき地・小規模校教育研究センター
実施形式：直前指導もしくは実習手帳提出時に配付
実施期間：令和3年8月～10月
対 象 者：93名（札幌・旭川・釧路校　へき地校体験実習〔夏期:1週間〕履修生）
回 答 者：92名（回答率98.9%）

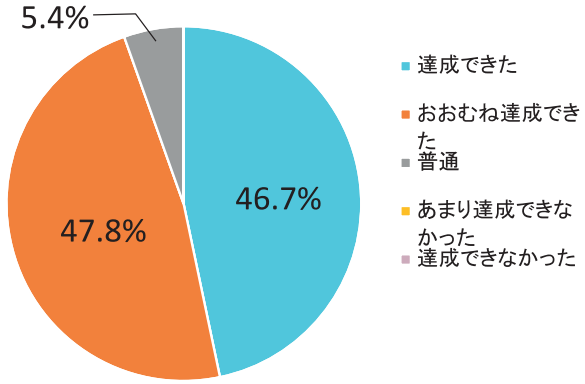
1. 実習に参加してよかったか



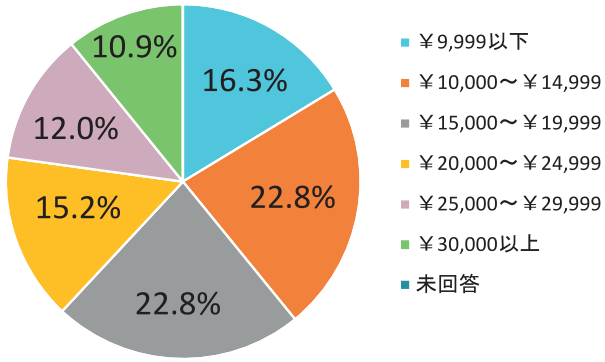
2. 実習の満足度



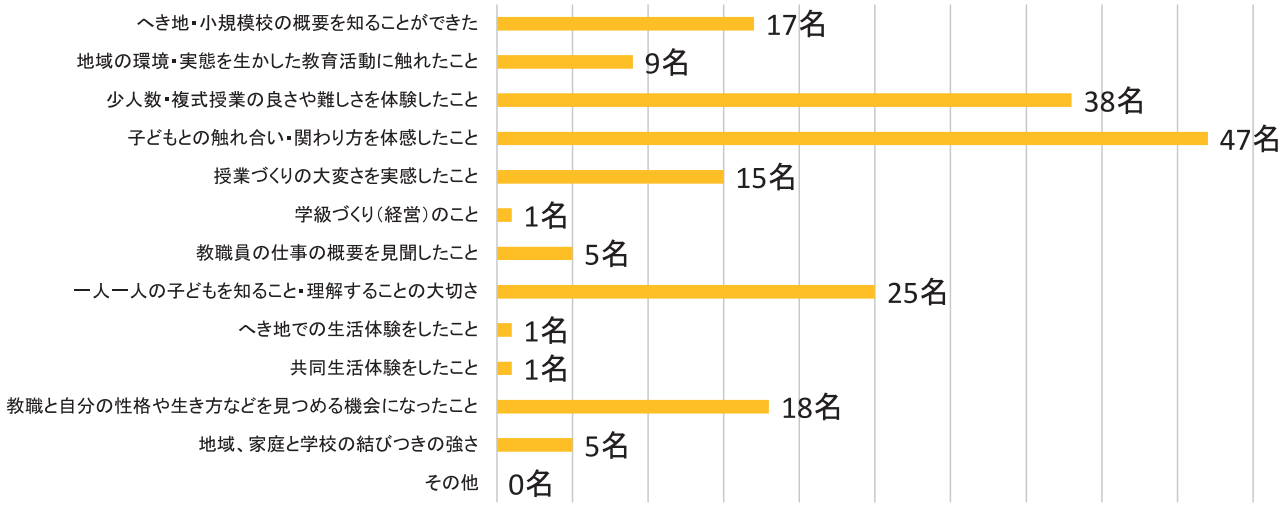
3. この実習で学びたかったことに対する達成度



4. 実習経費



5. 今回の実習で最も大きな成果・学んだこと・感じたことなど（1名2項目回答）



令和３年度　へき地校体験実習Ⅰ・Ⅱを終えて ～ 受講生アンケート

実習を終えた感想

- へき地・小規模校の良さや楽しさをたくさん知ることができた。また、先生方を始め、たくさんの方に温かく接していただいて、毎日楽しく過ごすことができた。特に、子どもたちと関わる中で「教師になりたい」という気持ちが強まった。この体験や気持ちを忘れずに、これからの大学の講義や教育実習に活かせるようにしたい。
- 複式授業の展開や先生方の対応などはもちろん、へき地校で育つ子どもたちの良いところをたくさん見つけることができました。保護者や地域の方々との関係性についてもへき地ならではと感じることも多く、自分にとっての理想だなと思いました。また、教員になりたい気持ちがより一層強固なものになり、さらにへき地校での勤務がしたいとも強く思いました。へき地校に実際に行かないとわからないことばかりだったので、本当に参加してよかったと感じました。
- 教師になりたいとより強く思った。教師になるためにはどのようなことをすれば良いのかを理解できた。子どもたちが本当に素直でかわいくて教師という仕事のやりがいや良い面をたくさん見ることができたと感じた。
- 実習前は楽しみもありましたが、大規模校の出身で、一週間未知の土地で暮らすのも初めてなので、交流がうまくできるかなど不安もたくさんありました。しかし、そんな不安は、児童の明るさと先生方の優しさでなくなりました。教壇実習は、指導案作成や模擬授業の経験もなく、全教職員が見守る中での初めての授業でしたが、児童から「またやりたい」という言葉を引き出すことができて感動しました。支えてくださった先生方には感謝しかないです。
- とても充実していて得られたものが多く、実習に行ってよかったと心の底から思っている。研究授業の準備はとても大変で毎日睡眠不足であったが、先生方がとても親切に指導をしてくださり、なんとか授業をすることができた。児童が「わかりやすかった」と言ってくれたことがとても嬉しかった。最終日に児童から手紙を貰った時には泣きそうになった。
- 今回の実習は、本当に毎日が「あっ」という間に過ぎていきました。初めは、児童への話しかけ方に迷い、緊張や不安などから観察の視点や気付きが少なかったですが、日に日に緊張感も程よいものとなり、教職についての素晴らしい体験と勉強になりました。
- 実習先では、児童一人一人に教師が向き合い、関係性が築かれており、各自の学習理解や特性に合わせた指導がされていた。児童に寄り添いながら指導することの大切さを目の前で見て学ぶことができた。また、児童の主体性を育むことができる環境づくりの重要性についても学ぶことができた。
- 私は「一人学年」と「５本の授業」の２つを今回の実習で経験することができました。担当の先生のご厚意で指導案を書いて行わせていただきました。毎日緊張し、授業をして反省して、次の日の授業の練り直しを行う毎日はとても充実していました。完璧ではなかったですが、全力で学ぶ経験をしている、生きていると感じました。
- 想像以上に楽しい体験ができた。準備や実習終了後の実習手帳記入や報告書作りなど大変なこともあったが、それも含め一度経験すると今後の実習の見通しがもてるようになると感じた。授業もただ見るのではなく、児童の実態や先生の授業方法の比較など見方について学べた。
- へき地校での教育の難しさを大きく感じました。生徒の人数が少ないため、教員の目が届くという良さもありますが、勉強における他者との競争があまりなかったりする難しさがあると思いました。また、教員にとっても町内に中学校が一つしかないので、同じ校種での研修を行うことができないことを知り、学び続けるこ

との難しさも感じました。

- 実習に行く前は「へき地校体験実習」という名前やその目的から、へき地・小規模校特有の良いところや難しさを学ぶことに焦点を当てていたが、実習を終えて得たものは、へき地教育だけでなく教育活動の全てにおいて大切だと考えることばかりだった。
- 子どもたちの素直さ・元気さ・地域の方々のあたたかさが印象に残っている。子どもたちは学年を越えて困っている子を助けていて優しい雰囲気が漂っていた。スクールバスの運転手さんが子どもたちととても仲良く、先生方とも親しかった。地域と学校のつながりの強さを肌で感じ、今までのイメージが更新された。
- へき地・小規模校の子ども達の様子や授業形態を学び、実際に先生方から様々な話を聞くことで、これから自分はどうすべきか、何が足りないかを知ることができました。私は、中学校に勤めたいと思っていましたが可愛らしい子ども達に関わる中で、小学校に勤めたい気持ちにもなりました。
- ４年でへき地校体験実習を体験した。私の代はコロナの影響で３年の教育実習が短くなってしまったが、教育実習を経たことで標準規模の学校の生徒の様子や授業のつくり方の違いに着目して学ぶことができた。実習後、実習生全員で学校祭にも参加させていただき、学年の出し物に関わりながら生徒への理解を深め、信頼関係も築くことができた。
- 慣れない生活をしながらの実習だったからこそ、私は子どもたちが自分の原動力になるということをものすごく強く感じられました。どれだけ疲れていても、子どもが頑張っている姿に自然と笑顔になり、自分を奮い立たせることができました。自分は子どもが大好きで、成長を見られることに喜びを感じるのだと実感できたことが、今後の進路を考える上でもとても大きな収穫となりました。
- 実習期間はあっという間で、目まぐるしい日々であった。先生方や子どもたちと「教師」という立場で接することによって、自分の立ち位置の自覚や責任の重さを再確認することができた。また、教師として働くことの魅力ややりがいを強く感じることができ、教職への期待が高まった。
- 行ってよかった、という思いが強いです。先生方、子どもたち、教育委員会の方･･･こんなに素敵な人たちと出会うことが出来て良かったなあと思います。実習中先生方からいただいたお話も、宿舎に帰ってからメンバー同士で話したことも、すべて良い学びとなりました。毎日がとても楽しく充実していました。今も心が温かいです。
- ４人という少人数の学級では、一人一人と丁寧に向き合い、性格や特徴に気付くことができた。ふれあいを通して、児童とも友好な関係を築き、最終日にメッセージカードをもらった時には強いやりがいを感じた。学級内では１年生と２年生、休み時間や自由研究の作品発表会では低学年と中・高学年という学年を超えた縦のつながりは、自分の小学校にはなかったためとても衝撃的だった。
- 本実習や副免実習を終えた後であったが、様々な学校や先生方を見て学ぶというだけでも本当に価値のあることだと感じる。学生時代に、いろんなタイプの先生・児童を知っておくこと自体が良い経験だった。特にへき地校は市の学校とは違う独特な雰囲気があるので、それを味わえて良かった。
- 体験授業や授業観察を通して、実際の子ども達と触れ合うことで、生身の子ども達の反応や発言、質問から気がつかなかった点や思ったようにいかない点を見つけることができ、非常に貴重な経験となった。より教員になりたいという気持ちが強くなった。
- 子どもたちとの接し方や教員同士の繋がり、地域の方々との協力について学び、地域に根差した学校教育の実践例を目の当たりにして、自分がやりたいことがわかったような気がします。実習に行く前はふわふわとして具体的な考えをもっていなかったのですが、共に頑張った実習生たちと話す中で、私は郷土愛をもった子どもたちを育てたいと強く思いました。地域に根付いたコミュニティスクールを確立させ、生まれ育った地域を愛する人たちを増やしていきたいです。